

クラシキ フレキベンダーVP 取扱説明書

製品を取付け使用する前に、この取扱説明書を注意深く読んでいただき、充分なご理解のうえで正しく施工いただきますようお願い申し上げます。

この取扱説明書は工事終了後保守点検管理者に必ずお渡し下さい。

裏面もご覧下さい。

製品の説明

フレキベンダーVP(NF形)は、地震や地盤沈下等の外的要因による配管の破損を防ぐことを目的として、御使用いただくものです。

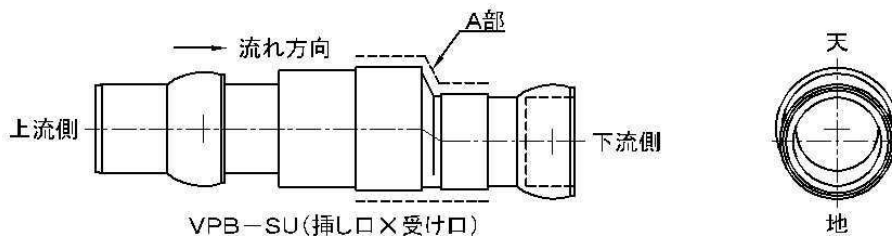
取扱・施工手順

※継手は塩ビ製で軽量です。過度に扱うと破損、変形が生じます。取扱いには十分注意下さい。
 ※配管は屋内で直射日光は避けて下さい。晴天時に屋外で放置すると変形することがあります。

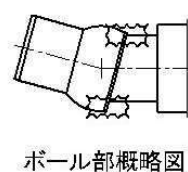
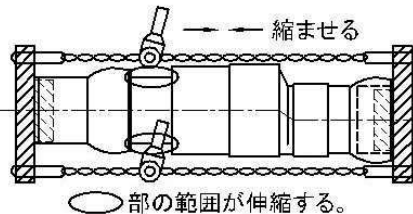
◎継手の取付方向(製品に貼付しているシールで確認下さい。)

(1)下図の向かって右側を下流側に取り付けること。

(2)A部の底がフラットな面を地面に、反対側を天に向けて取り付けること。



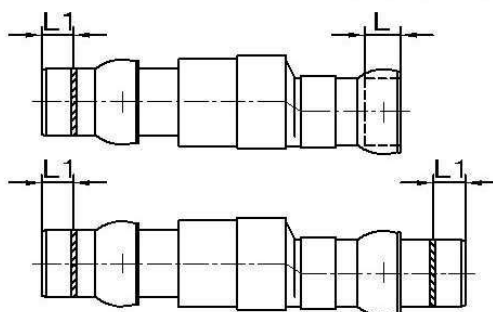
◎継手を面間調整等で伸縮させるとき、パッキンの面圧の関係上固くて動きにくい場合があります。継手の両端に木材等をあててレバーブロック、ヒップラー等で少し縮めると伸縮することができます。(この作業は、必ず2丁掛けし、左右同時で均等に操作して下さい。)



※塩ビ協会規格品の自在曲管です。ボール部を過度に曲げて変形などがないよう取扱いに注意して下さい。

◎継手の接合方法(塩化ビニル管・継手協会規格品の接着接合方法と同様です。)

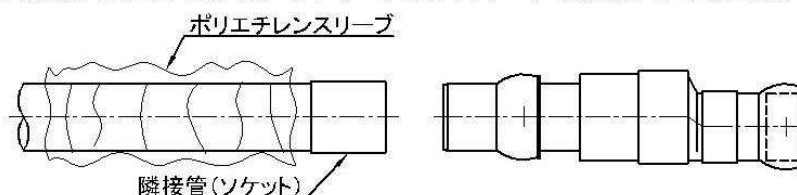
(1)受け口長さLおよびL1寸法と同じ長さの挿入標線をパイプ及び挿し口部に記入する。



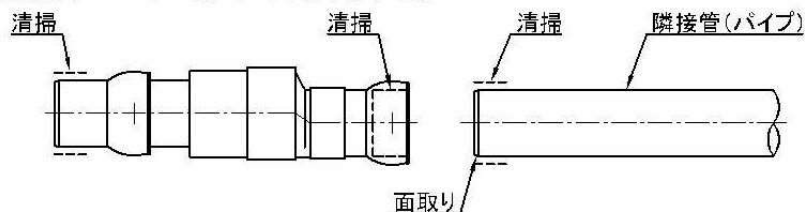
呼び径	50A	75A	100A	125A	150A	200A
L(mm)	25	40	50	65	80	105
L1(mm)	25	40	50	65	80	105~125

※接着受け口のL1寸法はソケットメーカーにより幅があります。よって、挿入標線は実物の受け口長さを測り記入して下さい。

(2)接合前に同梱しているポリエチレンスリーブを隣接管に通して預けておく。

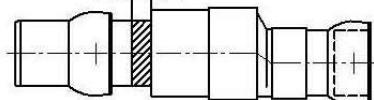


- (3) 接合部を清掃する。油、水、ほこりは入念にふき取る。油分はアルコール等で脱脂のこと。
また、隣接管のパイプ端面は面取りをする。



- (4) 挿入機を事前に取り付ける。機具取り付けの際は下図の部分に傷を付けぬよう注意する。

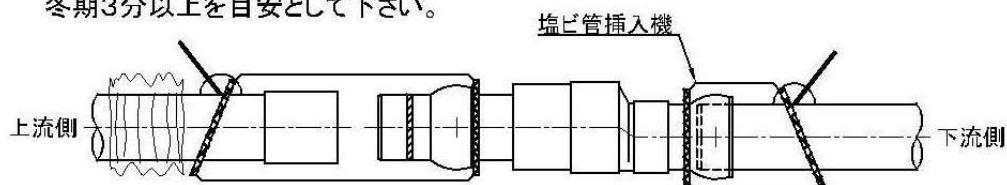
この範囲(50mm)に傷を付けぬこと。



- (5) 接合部に塩化ビニル管専用接着剤を均一に塗布する。参考に使用量を下表に示す。

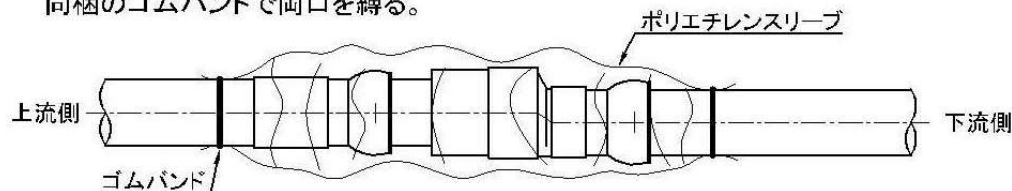
呼び径	50A	75A	100A	125A	150A	200A
使用量(g)	5	10	15	20	30	55

- (6) 管を挿入する。挿入機により標線位置まで挿し込む。挿入の保持時間は夏期1分以上、
冬期3分以上を目安として下さい。



- (7) 溶剤蒸気の除去。挿入後はみ出した接着剤はウエスでふき取ること。
また、管内面の溶剤蒸気除去のため、管の両口を開放して必ず通風すること。

- (8) 満水試験確認後、隣接管に預けていたポリエチレンスリーブを継手全体に覆い被せて、
同梱のゴムバンドで両口を縛る。



- (9) 配管及び継手は現場地盤に則した基礎工の上に敷設し、基床部及び管底部の締固めを
十分行う。次に管側部を十分に締固め基礎部の管路を安定させる。締固めが十分実施できな
いと基礎部の支持力が低下し管路にたわみ、蛇行、偏平が生じ継手性能の低下を招きます。

※※排水管の標準施工要領は塩化ビニル管・継手協会「下水道用硬質塩化ビニル管 技術資料
施工編」を遵守して現場地盤に則した基礎工と継手性能を理解・選定して正しく施工して下さい。

排水用塩ビフレキベンダー 標準施工のポイント

倉敷化工(株)

運搬・保管・取扱い

- 排水用塩ビフレキベンダー(以下、継手という)は塩ビ製で軽量なため、過度な取扱いをされると、継手に破損、割れ、変形などが生じることがあります。取扱いには十分注意して下さい。
 - 継手の積み降ろしは損傷防止のため、放り投げたり、滑らしたり、引きずったりしないで下さい。
 - 運搬時に継手をロープ等で固定する場合はクッション材をはさんで直に固い物が当たらないようにして下さい。運搬終了後は速やかにロープを解いて長時間締め付けしないで下さい。
 - 保管は原則、屋内とし、直射日光は避けて風通しが良く、熱気がこもらない場所で保管下さい。晴れの日(特に夏場)にアスファルトやコンクリートの上に放置すると変形することがあります。
 - 段ボールで梱包されている場合はそのまま保管し、継手直に他の重量物を載せないで下さい。
- ※継手が損傷や変形した状態で施工されると継手の性能に支障をきたします。

継手の接合

- 接着接合の要領は塩化ビニル管・継手協会「下水道用硬質塩化ビニル管 技術資料 施工編」を遵守し、前頁の施工説明書を熟読して正しく施工して下さい。
 - 接着接合部下部の床付け面に継手掘りを行い、接着剤を塗布した挿し口や受け口内面に土砂や地下水が付かないように注意して施工して下さい。
 - 接着接合作業中や接合直後には、継手の上に乗るなどして無理な荷重を加えないで下さい。
 - 枕木や板などを塩ビ管の下に敷いたまま埋戻すと管に応力が発生し偏平や破損を招きます。
- ※湧水地盤での接合は水分の付着や接着剤塗布不良による接着部の強度不足が懸念されるので、乾燥状態が確保できるよう砂基礎を補強した形式の基礎構造とし排水を十分行って下さい。

管路の基礎工 (塩化ビニル管・継手協会「下水道用硬質塩化ビニル 技術資料 施工編」を遵守下さい。)

※基礎部の構造は図-1のように基床部、管底側部、管側部、管上部から構成されます。

基礎の施工が不十分な場合は管路のたわみ、蛇行、偏平などの不具合が生じやすいため継手の性能に支障をきたす恐れがあります。現場地盤に則した基礎工を選定し適正に施工下さい。

※軟弱地盤、湧水地盤では砂基礎を補強した形式の基礎構造とし図-2にその一例を示します。

湧水対策が十分でない土中で管路が浮き出して排水性能に支障をきたす恐れがあります。

※※現場地盤と基礎工および締固め、埋戻しが適正でない場合は継手性能の保証は致しかねます。

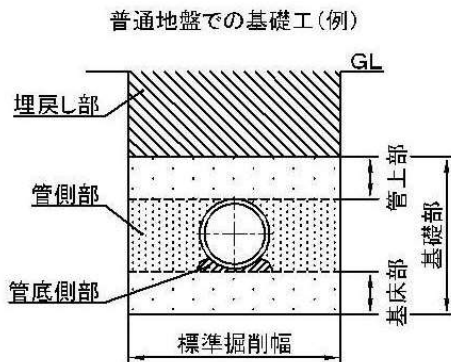


図-1

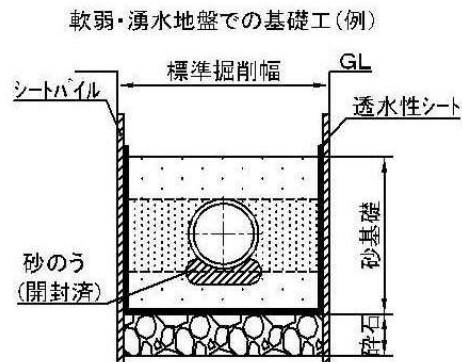


図-2

- 基礎材の材料は砂又は細粉分の少ない砂質材料で、最大乾燥密度85%以上の十分な締固め度が容易に得られるものを使用する。現場地盤により安定処理土、再生砂、碎石も検討する。
 - 基床部の厚さは普通地盤が10cm以上、軟弱地盤は50cm以上となるよう基礎材を均一に敷き、管据付底面の計画高さに合わせて一様に接触するよう振動コンパクター等で十分に締固める。
 - 管底側部は基礎材が回り込みにくく、締固め不足が生じやすい。空洞にならないように基礎材を十分充填し、足踏みや突き棒等で入念に突き、締固めを行う。継手掘り部も同様に行う。
 - 管側部の基礎材のまき出しは、一層の仕上がり厚さが20cm以内とし、管が移動しないように左右均等に敷きなし、締固めは一層ごとに木ダコ、足踏み、振動コンパクターで十分締固める。
 - 管上部の仕上がり厚さは、10cm以上とし、基礎材を均一に敷きならし十分締固める。
- ※基床部及び管底側部の締固めが十分実施できなかった場合、基礎部の支持力が低下し鉛直土圧の影響を受けて管路に沈下が生じ継手の性能に支障をきたす恐れがあります。
- ※管側部の締固めが十分実施できなかった場合、側方土圧が低下し鉛直土圧によるたわみ量が想定値より大きくなり、管路に鉛直偏平が生じ継手の性能に支障をきたす恐れがあります。

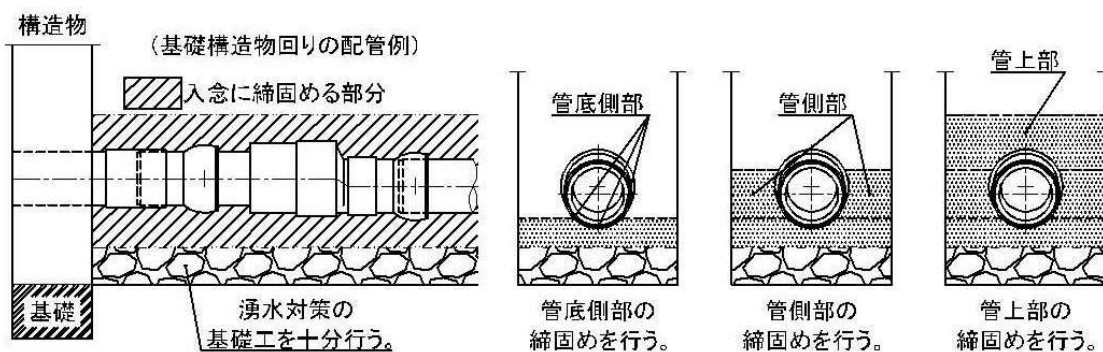
継手の心出しと仮固定

- 心出しの、水平方向は丁張り、下げ振り、水準器などを利用して行う。垂直方向の高さ、勾配の調整は管据付面(基床部)の高さを修正し、管が据付面に均一に接触するように行う。
- 仮固定は、心出し後、管側部の埋戻しに際して、管が移動しないよう接合部に近い部分を杭と番線を用いて仮固定する。杭や番線は管側部を埋戻し、管が固定された時点で必ず撤去する。

埋戻し

- 管頂30cmまでの埋戻しは粒径20mm以下の礫が含まれる良質な砂質材料又は砂で埋戻し、振動コンパクター等で十分締固めます。
- 管頂30cmから地表面(GL)までの埋戻しは良質土で厚さ30cmの層に分けて、各埋戻し層ごとに振動コンパクターで十分締固めます。
- ローラー等の重機で埋戻し土を転圧する場合は、管頂50cm以上まで埋戻した後を使用する。

継手の施工例



- ※継手の許容角度を確保するために、基礎工を適正に行い、継手の自在曲管部を真っ直ぐに敷設して管路のたわみ、蛇行、偏平、が生じないように各層を順次十分に締固めを行って下さい。
- ※※基礎工および締固め、埋戻しが適切に行えない現場は強度のある管材の使用を検討下さい。

予告なく仕様を変更することがありますのであらかじめご了承ください。

07110081C(2021.3)



倉敷化工株式会社 産業機器事業部

<http://www.kuraka.co.jp/sanki/>

〒712-8555 岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630 TEL(086)465-1715(代)